

文書館ニュース

Yamaguchi Prefectural Archives 山口県文書館 No. 38



もくじ

【表紙】「県政だより」(昭和27~33年・当館蔵)..... 1	● 写真MEMO2003..... 5
● 貴重な資料画像を世界に発信!..... 2・3	● 文書館トピックス..... 6・7
● 市町村合併と公文書保存Ⅲ..... 4	● 山口県文書館2004年度の行事..... 8

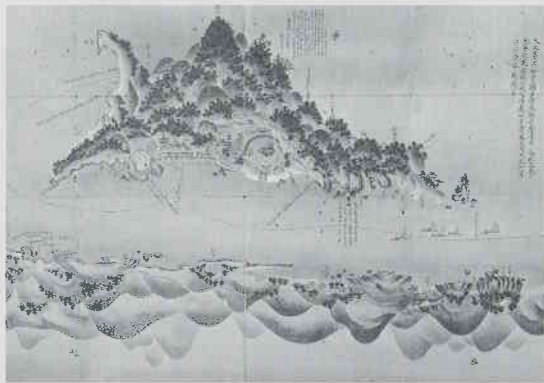
像を世界に発信!

<http://ymonjo.ysn21.jp/>

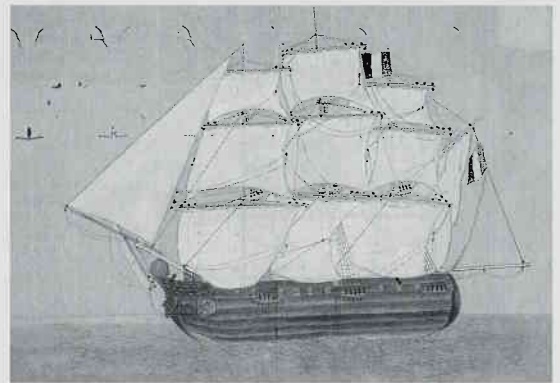
所蔵文書の検索及び一部の貴重資料の画像を公開しました。さらに成のポスターなど、約1000画像をホームページ上で公開します。



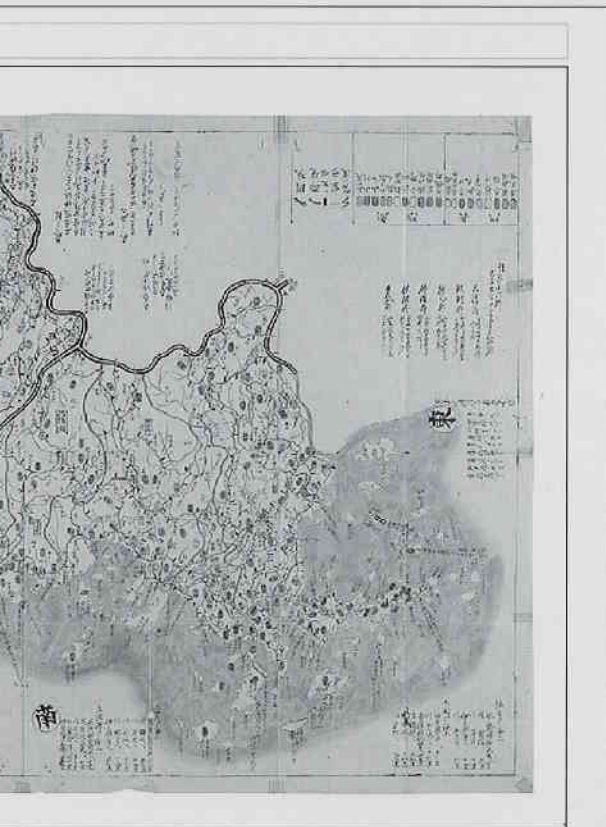
フレット昭和35-2)



芸州殿島御一戦之図(毛利家文庫58絵図878)



仏蘭西軍艦絵図(毛利家文庫58絵図994)



長るニ

Copyright Yamaguchi Prefectural Archives

画像の拡大表示

公開にあたって

山口県文書館は山口県の公文書及び記録と県内の歴史に関する文書及び記録を保存し、日々閲覧提供しています。これらの資料の中には、数多くの絵図・地図、古写真、ポスターなど、目で見えて楽しめる資料も多く含まれています。

本年四月から、これら資料のデジタル画像をホームページ上で公開します。どうぞ当館のホームページを訪ねて、山口県の歴史資料をご覧ください。



画像一覧画面

画像をご覧になるには

画像をご覧になるには、トップページから「各種データベース」を選択し、目的のデータベースをクリックしてください。

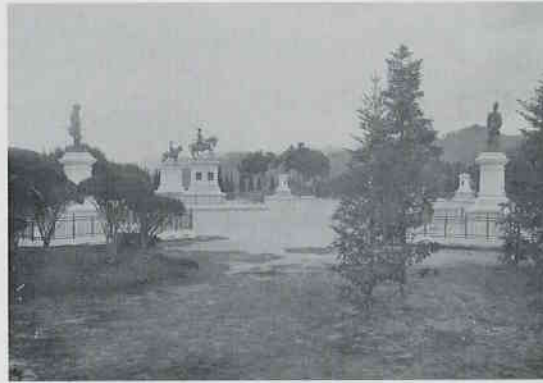
NEW

貴重な資料画

文書館では昨年4月にホームページをリニューアルし、今年4月から、毛利家文庫絵図・写真、袋入絵図、県作山口県の歴史を語る資料画像の数々をご覧ください。



県政だよりNo.12(ポスター昭和25-5)



鶴山公園(毛利家文庫81写真30)



山口県体育館(リー

今回の画像公開に合わせてホームページもリニューアルしました。リンク及び画面構成の見直しを行い、より快適に利用できるようにしました。

ホームページのリニューアル

昨年四月から開始した所蔵文書検索機能と連動しています。画像があるものについては目録詳細画面から見る事ができます。

所蔵文書検索と連動!

防長両国図 58絵図249

目録 - 詳細
標題 (筑城中並曲内侍屋敷絵図)
分類 藩政文書 > 毛利家文庫 > 59絵図
管理番号 59絵図804
画像
サイズ (cm) 94 x 99
年代 (宝永7年(1730))
作成 変数
数量 1
内容 裏面に「宝永七年七月五日津和野より備後江前移被成候上成黒川兵衛助 留難書左衛門尉 森川六左衛門殿頼國御覽可成候之様紙録ハ、可被差出と候市橋藩御付様御城之様御拜申とある。
- 59絵図 -
Copyright Yamaguchi Prefectural Archives

目録詳細画面

文書館ギャラリー新設!

ホームページ内に「文書館ギャラリー」を新設しました。このページでは特に利用頻度の高い画像を紹介しています。どうぞご覧ください。

市町村合併と公文書保存Ⅲ

■非現用文書は歴史資料へ！



旧明木村立図書館の蔵書整理
歴史資料として生かすため、山口県史編さん室・
山口市史編さん室の協力を得て、文書館が支援
しています。

合併協議が大詰め

合併特例法の期限が一年後に迫ってきました。各地域での合併協議が進展し、四〇〇五〇項目にのぼる重要な合併協定の進捗率は、県平均で七〇パーセントになっているそうです。しかし、これまでのところ、公文書保存協定が結ばれたという話は聞こえてきません。あらためて協議協定するまでもなく、当然のことといえは当然のことなのかも知れませんが、やはり、過去の合併に伴う苦い経験から、

公文書記録の散逸が懸念される
ところ。

公文書保存対策を合併協議会で

「公文書主義」が行政の根幹ですから、行財政基盤の強化策の一環として、公文書保存対策を協議しておくことが必要です。新市町に引き継ぐ公文書記録を選別する作業の過程で、引き継がなくてもよいものが大量に見つかるはず。不要な過去の公文書記録をどうするか、あらかじめ協定しておくことが重要です。

機構改革と庁舎移転が正念場

特に、新市町発足に伴う機構改革や庁舎移転で、不要と判定される公文書記録が大量に出てくるはず。その取り扱いは決めておく必要があります。少なくとも、移転先を指定しておき、整理整頓と評価選別を行う担当者を決めておかないと、この事態に対処できなくなりま

非現用公文書は歴史資料へ

また、新市町に引き継ぐ必要性がない過去の公文書記録は、その地域の歴史を物語るかけがえのない情報資源として、新たな価値付けを協定しておきたいものです。行政執行上の手段としての価値がなくなった公文書記録を過去の記録遺産として、積極的に価値を見つめたいものです。地域社会が共有する過去の情報源として、新たな歴史的価値を付与することなしに、積極的に保存する姿勢は生まれてきません。地域づくりを担う行政担当者にとっても、歴史に学ぼうとする地域住民にとっても、過去の記録遺産は、未来を切り

拓く情報源として必要です。あたたかい街づくりが、今、始まっています。

文書館が保存対策を助言

山口県の公文書記録を評価選別し、将来の歴史資料として引き継ぎ、保存活用してきた文書館は、差し迫った市町村合併に当たっても、そのノウハウを助言しています。特に平成十六年度は、各市町村に出張して、総務課公文書係と教育委員会事務局担当者に対して、非現用公文書記録の保存活用方法を説明して回ります。随時の相談にも積極的に対応します。すでに、旭村や三隅町などからの相談に対応しているところです。

公文書の歴史的価値を市民へ

もともと公文書記録は、主権者としての市町村民のもので、行政執行上の役割を終えたものについては、その個人情報保護しながら、一定のルールのもとで市町村民に還元することが理想です。そのような取り扱い方を、文書館の支援策として、専門職員が積極的にアドバイスします。

(戸島)

第3回 文書館デイズ

monjokan days 3rd

平成十六年一月二十三日(金)から二十五日(日)にかけて第三回文書館デイズを開催しました。

今回の特別資料展示は「文豪ステイ・ヴンスン・正木退蔵・吉田トラジロウ」をテーマとして、館蔵の正木退蔵と吉田松陰関係資料を展示しました。正木に関する資料をまとめて展示するのは今回が初めての試みで、多くの方々が興味深く資料に見入っておられました。



また、同展示に関連した歴史探究講座では、作家のよしだみどり先生を講師にお迎えし、英国の文豪ステイヴンスン作『ヨシダ・トラジロウ』誕生の秘話とそこに込められたメッセージについてご講演いただきました。

このほか、「古文書なんでも相談」では、家伝の古文書に関する相談など五件の依頼を受けました。「初心者のための文書館一日講座」にも多数の参加があり、施設見学や古文書・絵図などの実物にふれてもらいました。

写真右/特別資料展示会場入口
写真左/展示会場でのよしだ先生の解説

写真 MEMO 2003

絵図を片手に街を歩こう!

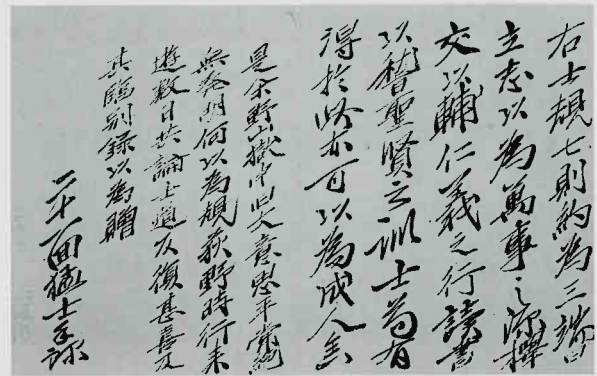
当館では、小中高の先生方を対象にした「古文書活用講座」を毎年開催しています。本年度は、古い絵図をもとに、山口市内の史跡や町並みを実際に歩いてみました。夏休み中の企画のため、参加者の皆さんは汗だくでしたが、大好評でした。



写真/国重文・今八幡宮楼門前にて

里帰りしました!

写真は、吉田松陰直筆の「士規七則」(部分)です。松陰の士道観がうかえる資料です。荻野時行(佐々木松墩)に書き与えた物ですが、昨年、米国在住の子孫から寄贈を受けました。早速修復を行いました。今回の文書館デイズ特別資料展示で公開して、注目を集めました。



ワンダー文書館

「知られていない文書館」、「不思議な文書館」という声にお応えしてのコーナーです。「ワンダーフルな文書館」になっていきたいものです。

ぶらさがった古文書「継立物」

文書館の書庫案内で、「これは？」と必ず聞かれるのが、変な形の継立物(つぎたてもの)です。何しろ長さ一メートルくらいに分厚い古文書の束が何本もぶらさがっているのですから目立ちます。それも上下二段にブラッと、不思議な雰囲気です。

束の中身を子細に点検してみると、切紙(漉いた和紙を横に二つ切りにしたもの)に書かれた古文書が次々に貼り継がれ、長い長い帯状になっていて、一定の長さに折り畳まれていきます。その片端が貫かれ、麻ひもでぶら下げられる仕掛けになっています。表紙と裏表紙は柿渋を塗った厚目の楮紙で、「萩日帳継立物」とか「諸窺書継立」などと標題が記入されており、「継立物」と呼ばれていたことが分かります。

このような文書の継ぎ立て保存の方法は、今では見かけられなくなりましたが、京都の公家や寺院では、日



々の文書整理事務として、書状などを継ぎ立てて、散逸しないようにしていたそうです。文化庁の藤本孝一先生から教わりました。また、中国では、「流水帖」と呼んでいるようで、やはり伝統的な文書類の保存方法だそうです。水が流れているような形になっていることから付けられた呼び名です。関西大学の陶徳民先生から教わりました。

確かに、萩藩の「継立物」も、「天保三辰年十一月ヨリ同四巳三月マテ」というように、一定期間の文書の継ぎ立てであることで、納得がいくことです。(戸島)

絵図・地図を活用した

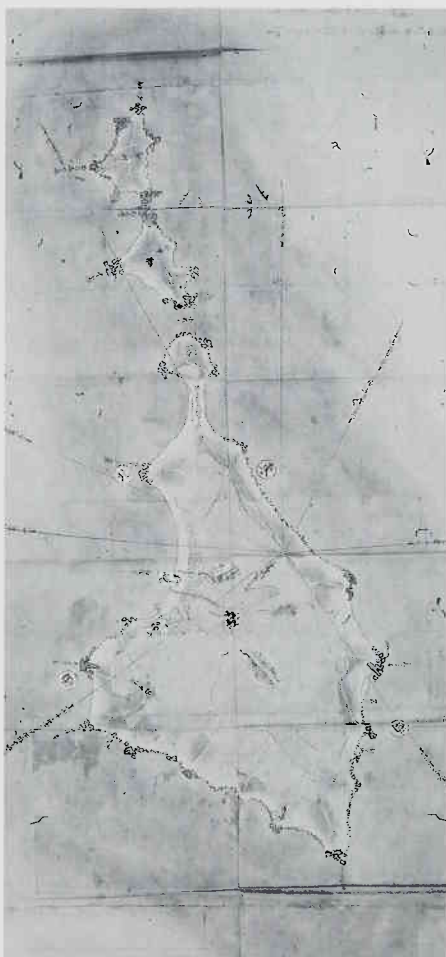
地域学習

地域の学習では、作成時期の異なる絵図・地図を比較して地域の変化を調べることがあり、その教材研究で学校現場の先生がよく来館されます。

最近では、野島中学校の井上麗華先生(社会科)が当館を利用さ

れ、「野島地下図」(写真)と地形図(二万五千分の一)を活用して地域の変化を調べる学習を实践されました。

どうぞ、地理的分野における教材研究についても、お気軽にご相談ください。(河村)



『毛利家文庫目録別冊3』

を刊行しました！

当館では毛利家文庫の文書記録を一層利用していただくために、平成十年度から『毛利家文庫目録別冊』として、簿冊記録に採録された記事内容を配列した件名目録を刊行しています。既に「公儀事諸控」の「総目次Ⅰ」と「総目次Ⅱ」を閲覧利用に供しています。

これに引き続き、今年度からは毛利家文庫三一「小々控」の総目次を刊行することになりました。この「小々控」は、万治元年(一六五八)から天保三年(一八三二)に至る一七五年間の記録で、四四三冊の構成です。

「小々控」に収録されている記事は、幕府に関することから、家臣・領民の事項に至るまで、豊富な内容を含んでいます。その収録記事数は八四〇〇件余を数えます。記事内容を分類してみると、①藩主親族の冠婚葬祭、他藩や京都の公家衆との交流などの藩主関係記事、②藩内の人事や藩士・領民の褒賞・処罰、藩主から下された命令などの藩内関係記事、③長府・徳山・清末・岩国の四末家に関わ

る支藩関係記事、④幕府からの命令や江戸・大坂町奉行との交渉を扱った幕府関係記事の四つに大別できそうです。

これら多種多彩な内容を持つ記事を丹念に調べることによって、新たな江戸時代の姿が見えてくることでしょう。

今後、「小々控」の総目次は三冊に分けて刊行する予定です。調査研究の一助となれば幸いです。

(吉田)



諸事小々控の一部

文書館で再会

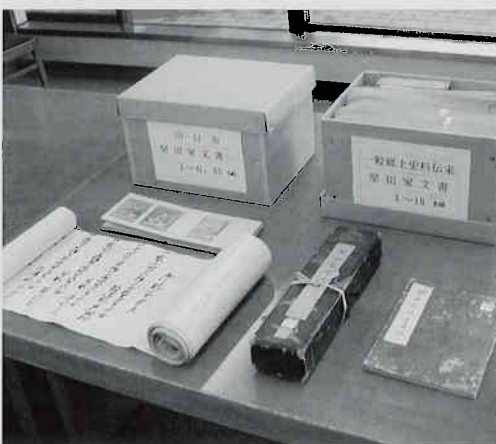
今年度閲覧提供を開始した諸家文書に「山口市堅田家文書」があります。平成十五年に堅田家の子孫から寄託されたものです。

堅田家は、毛利元就の家臣粟屋元通の次男元慶を祖とします。江戸時代は、萩藩寄組に属し、当職、当役などの要職を歴任しました。

文書の内容は、堅田家の由緒を示す系図・判物奉書類写や領地・跡目相続関係の判物が中心です。

ところで、当館の諸家文書中にはもう一つの「堅田家文書」があります。これは、もともと「一般郷土史料」に含まれていたものですが、独立した文書群として取り扱っておらず、詳しい目録もなかったため、あまり知られていませんでした。

今回、同じ名前の文書を受託したのを機会に、再整理を行い、目録を作成してみました。その結果、この堅田家文書の内容はすべて「山口市堅田家文書」を伝えた堅田家に関わるものであることが明らかになりました。したがって、これらは、本来は堅田家に伝わるべき文書だったと考えられます。



再会した「堅田家文書」

そこで、「一般郷土史料」に含められていた「堅田家文書」が当館に収蔵された経緯を調べてみると、堅田家から妻を迎えた白石潤二郎という人が昭和十二年に山口県立図書館に寄贈し、それが昭和三十四年の当館設立の際に移管されたことがわかりました。

つまり、二つの「堅田家文書」は、もともと堅田家に伝来したひとまとまりの文書であり、一度離ればなれになってしまったものが、当館で再会したというわけです。多少は自分はその手助けをしたかと思うと、何か不思議な感じがします。

(和田)

第4回文書館デイズ

期 日 平成17年1月21日(金)～23日(日)
会 場 県文書館・県立山口図書館研
 修室

※講座の募集要項は11月頃お知らせします。

古文書基礎講座(宇部市)

期 日 5月6日～6月10日の毎週木
 曜日、午後1時半～3時半
 (計6回)

会 場 宇部市文化会館
対 象 宇部市および周辺市町に在住
 の方(40名)

申し込み締め切り 4月28日(水) 消印有効
申し込み先 宇部市教育委員会文化振興課

☎0836-348616
 ※葉書でお申し込みください。

文書館シアター

昭和28年から58年までの県政ニ
 ユースなどの上映会です。貴重な
 昭和の映像記録をぜひごらんくだ
 さい。

期 日 4月～3月 毎月第3日曜日
 (6月は第1、8月は第2)
 午後1時～2時

会 場 県立山口図書館映写室

※年間スケジュールは当館ホームページに掲載
 しています。

古文書活用講座

期 日 8月17日(火)～20日(金)
 (計4日間)

会 場 県文書館・県立山口図書館研
 修室
対 象 県内小・中・高教員

※募集要項は7月上旬頃にお知らせします。

古文書入門講座
 古文書専修講座

期 日 4月～3月(入門講座は毎月
 第4土曜日、専修講座は毎月
 第2土曜日、午後2時～4時。
 各計12回)

会 場 県立山口図書館研修室

対 象 入門/古文書解読の初心者の方
 (30名)

専修/より進んだ読解力の習
 得をめざす方(30名)

※本年度の募集は終了しました。来年度の募
 集要項は12月頃にお知らせします。

月間小展示
 <文書館閲覧室小展示コーナー>

文書館閲覧室において、月替わ
 りでテーマを設け、館蔵の文書・
 記録を紹介しています。
 どなたでもお気軽にご覧ください。

- 4月 山口で暮らした足利将軍
 「流れ公方」と呼ばれた男
- 5月 近世大名の呼称
 —その姓と名—
- 6月 史料に見る昭和の大合併

文書館閲覧室は、県立山口図書
 館と同じ建物の2階にあります。

開館日

月曜日～土曜日(9時～17時)

閉館日

- 日曜日、祝日、月末整理日
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- 春秋資料整理期間
 (5月17日～23日、10月24日～30日)

